福岡市のウイルス性輸入感染症疑い発生状況

保健科学課　ウイルス担当

１　平成30年度輸入感染症疑い発生件数

平成30年度において医師の提出する発生届等によって推定感染地が海外渡航先とされた輸入感染症疑い発生件数は6件であった．疾患別にみると，デング熱4件，A型肝炎1件，E型肝炎1件であった．デング熱，A型肝炎は過去5年間にも輸入感染症疑い事例の発生があったが，E型肝炎については過去5年間で初の発生例となった（表1）．

表 1　過去 5 年間の輸入感染症疑い発生件数推移

年度	26	27	28	29	30	計
デング熱	1	4	1		4	10
A 型肝炎	2	2		2	1	6
E 型肝炎					1	1
麻しん	2					2
計	5	6	1	2	6	19

２　デング熱

平成30年度は4例の発生がみられた（表2）．推定感染国はいずれも東南アジア諸国であった．またすべての事例で患者には推定感染国内で蚊の刺咬歴があった．

事例1では，初診の病院で原因不明の疾患と告げられてから病院を転々とし，発病から少なくとも7日以上経過した検体であった．IC法・ELISA法ではIgM，IgG，NS1抗原がともに陽性であったが，リアルタイムPCR法では陰性であったため血清型の判定はできなかった．他の3例ではすべてリアルタイムPCR法で陽性であった．

表 2　平成 30 年度デングウイルス検出事例

No.	検出病原体	検出材料	検体採取月	年齢	性別	推定感染国
1	デングウイルス	血清	8 月	27	F	フィリピン
2	デングウイルス 1 型	血清・尿	1 月	36	M	タイ
3	デングウイルス 3 型	血清	2 月	34	M	カンボジア
4	デングウイルス 2 型	血清	3 月	27	F	インドネシア

３　ウイルス性肝炎

平成30年度はA型肝炎1例，E型肝炎1例の計2事例の発生がみられた（表3）．推定感染国は2例とも中国であった．

事例1は渡航先でニンニクやネギなどの非加熱食品の喫食歴があったが，男性間性交渉者（MSM：men who have sex with men）であり感染源は特定できなかった．遺伝子配列の解析の結果，2016-2017年にEUのMSMを中心として流行している株（RIVM-HAV16-090）と同一のクラスターであった．事例2では渡航先で加熱された二枚貝を，国内で友人から入手したカモ肉を喫食していた．遺伝子配列の解析の結果，近縁の株がない散発例であった．

表 3　平成 30 年度肝炎ウイルス検出事例

No.	疾患名	検出病原体	検出材料	検体採取月	年齢	性別	推定感染国
1	A 型肝炎	A 型肝炎ウイルス 1A 型	ふん便	4 月	46	M	中国
2	E 型肝炎	E 型肝炎ウイルス 3 型	血清	1 月	67	M	中国